

## 平成 27 年度千葉市芸術文化振興事業補助金 事業実施報告について

## 1 市民参加事業 申請事業数 8 事業、採択事業数 5 事業

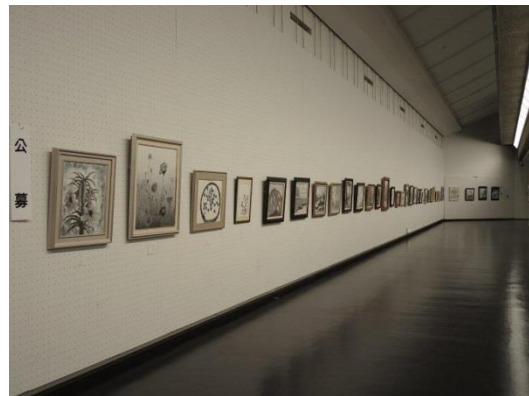
(1)

行 事 名	第 47 回千葉市水墨画同好会連合会展
日 時	平成 27 年 7 月 14 日 (火) ~ 7 月 20 日 (月)
会 場	千葉県立美術館 4、5、6、7 展示室
主 催 団 体	千葉市水墨画同好会連合会
補 助 金 額	200,000 円
事 業 概 要	水墨画同好会連合会会員及び公募による水墨画・墨彩画・表装(掛軸)の展示や、来場者への水墨画体験教室を行った。展覧会鑑賞料、体験教室ともに無料。 水墨、墨彩画の展示 420 点(公募作品 35 点) 表装(掛軸) 56 点 計 476 点
事 業 実 績	出展者 250 名 来場者 1,679 名 体験教室参加者 79 名(児童 9 名)
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの展示作品と体験コーナーにより多くの観覧者の入場があった。</li> <li>・一般市民の方を対象に公募を実施し一定の成果を得られた。</li> <li>・体験コーナーは実施時間の延長等内容の充実をはかり、より一般市民が参加できるよう考慮する必要がある。</li> </ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ事業計画書どおりに事業実施がされていた。</li> <li>・体験学習のコーナーでは、初心者でも楽しめるよう経験者の方がアドバイスをするなど、和やかな雰囲気で行われていた。参加者は中高年層が中心だが、親子での参加も見られた。</li> <li>・所属する同好会ごとに作品を展示しており、同好会によって作風が異なるなど、それぞれ特色がでていた。普段合う機会の無い他団体の人の作品を互いに鑑賞でき、他団体と交流する機会となっている。</li> <li>・作品紹介や同好会紹介などがあると、これから参加したい人の参考になると考えられる。</li> <li>・公募作品の拡充を図るために、ホームページの利用など広報関係の必要を感じた。</li> </ul>

○ 体験コーナーの様子



○ 展示の様子



(2)

行事名	第20回千葉市謡曲大会
日時	【能楽体験講座】平成27年7月18日(土)～9月19日(土) 【公演】平成27年9月26日(土) 9:45～16:30
会場	【能楽体験講座】新宿公民会、小仲台公民館、千葉市文化センター 【公演】千葉市文化センター アートホール
主催団体	千葉市能楽連合会
補助金額	200,000円
事業概要	能楽連合会会員による謡曲、仕舞、舞囃子、小鼓の公演、能楽展示会及び能楽解説を実施した。また、事前申し込みにより、「謡曲」、「仕舞」、「小鼓」の3コースによる能楽体験講座を実施し、当日の公演に出演した。公演鑑賞料、受講料ともに無料。
事業実績	【能楽体験講座】参加者33名(謡曲11名、仕舞9名、小鼓13名) 【公演】出演者120名(うち発表会出演者18名) 来場者200名
主催者感想等	・能楽体験講座や能楽展示会等を通じ、能楽そのものの一般市民の方々への浸透と、普及の促進に手ごたえを感じることができた。 ・高齢化する会員の後継者養成と新人発掘が課題。能楽技法に磨きをかける努力の継続も必要。
視察所見等	【能楽体験講座について】 ・能楽体験教室では、参加者のほとんどが初心者で、学校の先生も含まれていた。男女の割合はほぼ半々であった。 ・初心者でもわかるように工夫して講義を行っており、受講生は熱心に講義を聞いていた。 【公演について】 ・来場者の年齢層は高く、男女の割合は半々であった。 ・展示コーナーでは、展示を見ている市民に担当者が積極的に話しかけて能楽の説明を行う等、来場者に能楽を広めようという意識が見られた。 ・能楽体験講座受講者の発表では、その内容について説明があり、会場は和やかな雰囲気であった。 ・各会員の発表は、番組表に添って淡々と続き、何をやっているのか分かりにくく、発表の前に解説を行うなどの工夫が必要と感じた。

○ 能楽体験講座の様子



○ 能楽展示会の様子



○ 公演の様子（能楽体験講座発表会）



(3)

行 事 名	第20回国際音楽の日コンサート（びっくりおもちゃ箱コンサート）
日 時	平成27年10月3日（土） 13:30～16:30
会 場	京葉銀行文化プラザ 音楽ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	公募による市民47名の合唱団、市内で活動するプロ10名の器楽団、おんきょうスクールメンバー（音楽協会会員）の若手プロソリスト10名の編成による、「国際音楽の日」記念コンサートを開催。 第1部 フニクリ・フリクラ／ソーラン節／「魔笛」よりパパパ／「サウンドオブミュージック」メドレー／アンダンテとロンド／「カルメン」より闘牛士の歌／「椿姫」より乾杯の歌 第2部 おもちゃのシンフォニー／クラブフェン／ツイゴイネルワイゼン／弦楽セレナーデ／「蝶々夫人」よりある晴れた日に／ハレルヤ
事 業 実 績	出演者90名（うち公募市民47名） 来場者400名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・質の高い音楽を市民に提供でき、来場した聴衆に好評を博した。</li><li>・市民による市民のための市民の音楽活動を展開し、千葉市音楽文化の向上に寄与した。</li><li>・地元の音楽専門家をより一層発掘し、若手音楽家に演奏の場を提供することにより、若手音楽家を育成していきたい</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ほぼ事業計画書どおりの事業実施がされており、座席はほぼ満席で男女比は半々であった。</li><li>・それぞれの演目に様々な工夫が凝らされており、鑑賞者の興味を惹く演出がされており、鑑賞者の反応も良かった。</li><li>・プロと公募市民による大合唱は迫力があり、完成度の高さを感じた。</li><li>・鑑賞者、合唱団ともに中高年層が多く、若者の参加を促す工夫も必要と感じた。</li></ul>



(4)

行 事 名	第62回千葉市民音楽祭
日 時	平成27年11月8日(日) 10:00~18:00
会 場	京葉銀行文化プラザ 音楽ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	市内で活動する音楽愛好団体(合唱、楽器)が一堂に会し、日頃の練習成果を発表するコンサートを開催。それぞれの団体が7~8分程度の合唱・演奏を行った。また、2部構成のそれぞれの最後にプロによる演奏を行った。コンサート鑑賞料無料。公募による参加費有料。
事 業 実 績	出演者40団体760名 来場者1,016名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・自団の演奏をするだけでなく、他の団体の演奏を聴き、さらに自己研さんの糧にするなど、お互いの交流により親交も深めることができた。</li><li>・40団体で1日の演奏会としては時間的に限界であるため、今後団体数を増やすためには夜間の演奏も検討する必要がある。</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・概ね事業計画書どおりの事業実施がされており、男女比はほぼ半々、学生の参加団体もいたが、多くが中高年層であった。</li><li>・1階席は団体出演者、2階席が一般観覧席となっていたが、来場者のほとんどが団体の家族、友人関係であったと思われる。</li><li>・アマチュア団体の公演のため、レベルは高くなく、団体出演者と関わりの無い人の集客は難しいと感じた。</li><li>・公募による市民の発表という意味では、多くの市内団体が参加し、意義のある事業と感じた。</li><li>・40団体が参加する大会であることから、各団体のPRの場や交流機会を設けることができれば、団体の活性化や次の活動につなげるきっかけになる可能性はあると感じた。</li><li>・2部構成の各部の最後にプロの公演があり、参加団体にとって本物の音楽を聴くことができる良い機会になっていると感じた。</li></ul>

○ 参加団体の発表の様子



○ プロによる演奏の様子



(5)

行 事 名	和ー楽しもう鑑賞と体験ー
日 時	平成28年2月21日(日) 13:00~16:30
会 場	生涯学習センター ホール
主 催 団 体	NPO法人BOSO
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	津軽三味線や和太鼓、お囃子、日本舞踊などの伝統芸能のプロによる公演と、来場者が講師指導により伝統芸能体験を行った。伝統芸能体験は、子どもを中心に事前申込み及び当日受付で募集した。公演鑑賞料、体験料ともに無料。 第一部 お囃子の世界(お囃子の演奏/お囃子体験) 第二部 舞踊の世界(舞踊家の踊り/未来を担う若手の舞踊/舞踊体験) 第三部 津軽三味線の世界(津軽三味線の演奏/津軽三味線体験) 第四部 和太鼓の世界(和太鼓の演奏/和太鼓体験)
事 業 実 績	出演者68名(うち、一般参加者45名) 観客数340名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本の素晴らしい伝統芸能を老若男女問わず多くの人々に知ってもらうことができた。</li><li>・鑑賞だけでなく、体験も行うことにより、幅広い世代に伝統芸能を身近に感じてもらうことができた。</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ほぼ事業計画書どおりの事業実施がされており、300人収容のホールがほぼ満席で、立ち見も出ていた。</li><li>・学生から中高年層まで幅広い年齢層の方が来場しており、親子連れの来場者もいた。男女比もほぼ半々であった。</li><li>・市内中学のボランティア部を活用し、またその生徒も公演を鑑賞・体験参加していた。</li><li>・配布されるプログラムやアンケートに英語表記があり、また、館内インフォメーションも日本語と英語で行うなど、外国の方を含め多くの人へ広めようという意識が見られた。</li><li>・芸能体験は、各公演の途中でステージ上に体験者が檀上し、体験する形式で行われ、体験者だけでなく、鑑賞者も一緒に体験できるような工夫もされており、出演者と鑑賞者全体で公演を行っているというような雰囲気があった。</li><li>・プロの演奏で芸術性・エンターテインメント性があり、また聞き所、仕組みや楽器の特長など初心者にわかりやすく説明されていた。</li></ul>

○ 体験の様子



○ 公演の様子





## 2 市民育成事業

申請事業数 1 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	千葉ジュニアオペラ学校 2015
日 時	平成 27 年 7 月 17 日 (金) ~ 10 月 18 日 (月・祝) 【公演「トスカ」10 月 4 日 (日)、10 日 (土)、12 日 (月・祝)】
会 場	【講義】海浜打瀬小学校、風の丘 HALL 【練習・公演：「トスカ」】風の丘 HALL
主 催 団 体	小空間オペラ TRIADE
補 助 金 額	300,000 円
事 業 概 要	公募による児童生徒 (小・中学生) が、オペラのプロ・専門家による講義の受講、舞台練習を経て、オペラへ出演した。 (演目：「トスカ」。オペラにはプロも出演。) 28 年度も市内で同様の事業を展開する。(28 年度芸術文化振興事業補助金内定)
事 業 実 績	【講義】 参加者 児童生徒 19 名 (親子 17 組) 【練習】 参加者 児童生徒 13 名 【公演】 出演者 34 名 (うち児童生徒 13 名) 観客動員 167 名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年目より子供たちも 2 年目は増え、2 会場での開催もできた。講義の内容も充実を図り、結果として、かなり完成度の高い結果を得られたと感じている。</li> <li>・今後地域を広げていくためには、スタッフの増員や、講義のシステム、開催教室の場所など、解決をしていかなければならないと考える。</li> </ul>
視 察 所 見 等	<p>【オペラ講義に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ講義の参加者の多くが女子であった。</li> <li>・一方的な講義では無く、その都度子供に質問をし、丁寧に指導を行っていた。子どもたちの反応も良かった。</li> <li>・参加者が多くなった場合、手狭になる可能性があり、対応が必要と感じた。</li> </ul> <p>【オペラ公演に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・75 の客席はほぼ満席であった。男女比は半々程度、年齢は中高年層の割合が高かった。</li> <li>・子どもたちは、オペラ冒頭の合唱と、劇中での街人として合唱による参加等、劇中に数回出演していた。出番後は、会場内の観客席でオペラ鑑賞をしていた。</li> <li>・舞台構成も限られた場所を有効に使用しており、客席との一体感があった。</li> </ul>

○ 講義の様子



○ 練習の様子



○ 公演の様子



**3 市民参加特別事業**

申請事業数 1 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	第 1 2 回千葉市民による第九特別演奏会
日 時	平成 2 7 年 1 2 月 6 日 (日) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 3 0 分
会 場	千葉県文化会館 大ホール
主 催 団 体	千葉市音楽協会
補 助 金 額	1, 5 0 0, 0 0 0 円
事 業 概 要	公募による市民 1 8 0 名の合唱団、「千葉フィルハーモニー管弦楽団」の協力による 1 0 0 名の管弦楽団、音楽協会スクールコンサートのチームメンバーから選出された 4 名のソリストが出演する、市民参加型の「第九」演奏会を開催した。 第 1 部 ジョンウイリアムズ作曲《スター・ウォーズ》より 第 2 部 ベートーベン作曲交響曲第九番ニ短調作品 1 2 5 <合唱付き>
事 業 実 績	出演者 3 1 8 名 (うち公募市民 1 8 0 名) 観客数 9 0 0 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手作りで質の高い「第九」を演奏することができ、来客の皆様からも喝采を浴び、高い評価を得た。</li><li>・ 3 年に一度の市民による「第九」は市民から多大の期待を受けていることから、3 年後にも市民の期待に応え、開催できるよう準備する。</li></ul>
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中央より後ろの指定席に空席が目立った。年齢層は中高年層がほとんどで、若い人はほとんど見当たらなかった。男女比は同程度。</li><li>・ 第 1 部で映画音楽 (スター・ウォーズのテーマ) を楽曲として取り入れるなど、クラシックファン以外の人でも楽しめるよう楽曲構成には工夫が見られたが、舞台進行自体は通常のクラシックコンサートと同じ流れで、クラシックに馴染みのない人を取り込むような工夫等はなかった。</li><li>・ 演奏・合唱ともに迫力のある素晴らしい公演であったことから、学生を観客として招待するなど、若い人が鑑賞できるような工夫があると良いと感じた。</li><li>・ 親子連れの方も来ていたので、体験コーナーなどがあると楽しめるのではないかと感じた</li></ul>